

全国初の県全域における小学生バス無料デーの実施 ～ハッピーライドin静岡プロジェクト～

榊原 秀作（静岡県交通基盤部都市局地域交通課）、松本 幸正（名城大学理工学部）

キーワード：学校教育MM、バス利用促進、地球温暖化対策、態度・行動変容分析

背景と目的

- 背景**
- ・ 少子高齢化、人口減少、モータリゼーション普及による長期的な乗合バス利用者の減少
 - ・ バスドライバーの高齢化による運転手不足への危機感
- 目的**
- ・ 小学生を中心とした地域住民の**バス利用の促進**
 - ・ 地域の移動手段である路線バスを将来に亘り維持するため、**社会全体で「乗って育む」意識を啓発**
 - ・ 皆でバスに乗り合うことによる**環境負荷の低減**

プロジェクトの内容

- 概要**
- 小学生のバス利用を促進し、バス利用者の増加につなげるため、**県内全ての小学生を対象にバス無料デーを実施した。**
（小学生を対象とした全県規模の実施は全国初！）
- 対象者**
- 静岡県内の学校に通う小学生 524校 約173,000名
（国公立・私立小学校、特別支援学校、外国人学校の全児童）
- 実施日**
- 令和6年12月7日（土）～8日（日） 2日間
- 対象のバス**
- 静岡県内を運行する路線バス・コミュニティバス
（土日運休路線、高速道路走行路線等一部対象外の路線・区間あり）
- 利用方法**
- リーフレットをバス運転士に提示
- 主催**
- ハッピーライドin静岡プロジェクト実行委員会
構成員：国、県、市町、（一社）静岡県バス協会、乗合バス事業者
事務局：静岡県バス協会、静岡県地域交通課
- パートナー**
- 静岡鉄道株式会社、静岡県地球温暖化防止活動推進センター

静岡県地域公共交通計画

5か年（～2028年）基本的な方針（プラン編）	
地域の足を支える公共交通の確保	乗りやすい、乗ってみたい公共交通の提供
長期的な目標 ①必要な時に、必要な場所へ ②安全に、安心して ③迷わず、スムーズに ④だれもが快適に ⑤みんなが愛する地域の誇り	5年間の（計画）目標 目標1：公共交通ネットワークの維持確保 ・ 広域幹線交通の維持確保 ・ 地域内交通の維持確保 ・ 運転手等公共交通を支える人材確保 ・ 安全・安心な利用環境の維持確保 目標2：公共交通の利活用促進 ・ モビリティマネジメントの推進 ・ 周遊性の向上、改善 ・ 公共交通の役割・魅力の発信 ・ 公共交通を快適に利用できる環境の整備 目標3：公共交通サービスの効率化・高度化 ・ バリアフリー・ユニバーサルデザイン化の促進 ・ DXの導入促進（AIデマンド交通、Meas等） ・ 交通結節点における円滑な接続 ・ 地域の多様な輸送需要の活用、住民共助などによる駅・停留所から自宅・目的地に向けた移動手段確保の取組 ・ 交通分野におけるGX推進



リーフレット

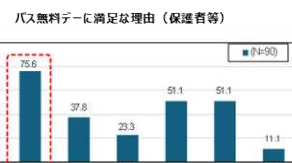
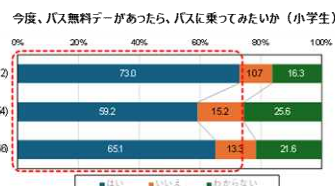
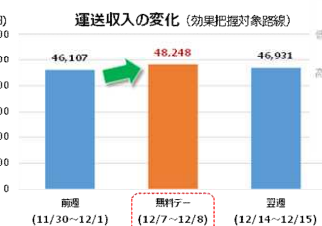
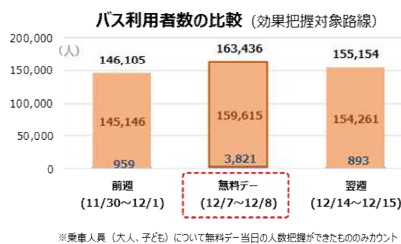
効果

全国初のイベントなのに、利用者が少なかったらどうしよう…

イベントを実施して、バス事業者の運賃収入が減少したらどうしよう…

今回のイベントがバスへの関心の向上や利用意識の醸成につながったのだろうか…

効果の詳細はこちら



前週、翌週のいずれと比較しても**増加**！
子どもは前週、翌週の**4倍**！

前週、翌週のいずれと比較しても**やや増加**！
減収にはなっていない！

小学生の運賃は無料だが、**もともと利用していなかった人が利用したため減収にはならず、一方で同行する保護者は有料であるため、全体として増収につながったものと推察される**

無料デーでなくてもバスに乗ってみたい小学生が**約8割**！
子どもの経験になるから無料デーに満足な保護者が**8割以上**！

結論

- ・ バス無料デー（乗車を体験する機会の提供）と、その周知広報やアンケート（考える機会の提供）によって、県民のバス利用の促進に対して一定の効果があったと考えられる。
- ・ 一方、利用者の意識や行動スタイルは一度の啓発イベントで急激に変わるものではなく、定期的に取り組むことで徐々に変容していくため、利用者の増加につなげるためには、本イベントの継続実施が必要と考えられる。
⇒ **今年度（令和7年度）も継続実施することが決定！**